

新潟市認知症初期集中支援チーム 「おれんじサポート」の実施状況について

新潟市福祉部地域包括ケア推進課

新潟市認知症初期集中支援チームの実施状況

年度	H30	R元	R2	R3	R4	計
相談件数	39	53	51	62	55	260
支援対象者	27	29	41	49	40	186
支援対象外	12	24	10	13	15	74

※全市域での開始はH30.11から

<支援対象外の状況>

介入前に医療・サービスにつながった、精神科疾患として受診、身体的な疾患で入院、家族が介入拒否 など

1

令和4年度の各チームの活動状況

おれんじサポート	相談件数	支援対象者	支援終了者	待機中	支援対象外
北・東	12	7	7 (3)	0	5
中央	19	15	27 (15)	4	0
江南	9	7	5 (0)	2	0
秋葉・南	6	3	2 (2)	0	3
西・西蒲	9	8	8 (1)	1	0
計	55	40	49 (21)	7	8

・ () は、前年度からの支援対象となっている者で令和4年度に支援が終了した人数

2

圏域ごとの相談状況

チーム	圏域	H30	R1	R2	R3	R4
		相談件数	相談件数	相談件数	相談件数	相談件数
北・東	阿賀北			2	1	1
	くづつか				2	5 (1)
	上土地亀					
	山の下	1	4 (1)	4 (1)	1	1 (1)
	藤見・下山		2	3 (1)	2 (2)	3
	木戸・大形		2 (1)	2		1 (1)
	石山		1			
中央	関屋・白新	4	2	1	2	2 (1)
	ふなえ	5 (1)	3	1	8 (4)	7 (1)
	宮浦東新潟	7	8	9 (2)	20 (1)	3
	鳥屋野上山	2	3	9 (1)	4	8 (1)
	山湯		1	2 (1)	4 (2)	
江南	大江山・横越	2	3		1	1
	かめだ	1	2 (2)	4	1	7
	曾野木両川		1		3 (1)	1

() はケアマネからの相談件数を再掲

3

圏域ごとの相談状況

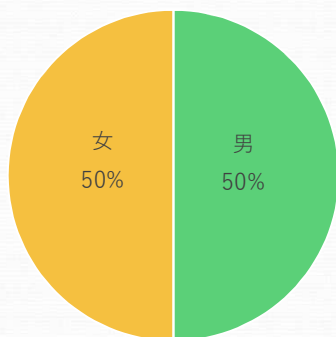
圏域	H30	R1	R2	R3	R4	
	相談件数	相談件数	相談件数	相談件数	相談件数	
秋葉・南	にいつ日宝町	1	3		1	1
	新津		1	2	3	
	こすど		1 (1)	1	1	1 (1)
	しろね北	2	1	1	2 (1)	2 (1)
	しろね南	3	5	2 (1)	2 (1)	1
	あじかた		1	2	1	1
	小新・小針	1	2 (2)	1 (1)	1	2 (1)
西・西蒲	坂井輪	2			1	1
	五十嵐					
	黒埼			1		2
	赤塚	1	4	1 (1)	1	2
	西川		1			
	中之口・潟東	1				
	巻	3	2	2		2 (1)
	岩室	3		1		
合計	39 (1)	53 (7)	51 (9)	62 (12)	55 (10)	

() はケアマネからの相談件数を再掲

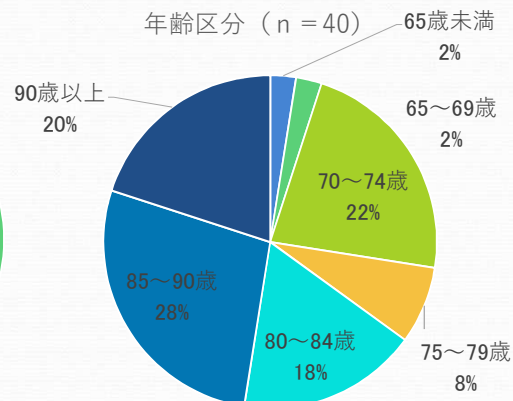
4

支援対象者の状況

性別 (n = 40)



年齢区分 (n = 40)

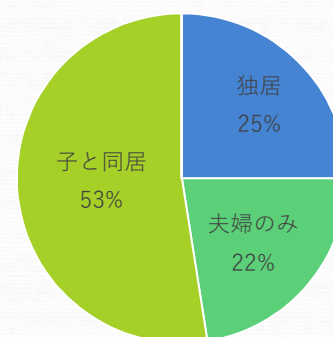


- ・男女の差はなかった (R3: 男性32%)
- ・75歳以上の対象者が8割近くを占めた (R3: 92%)

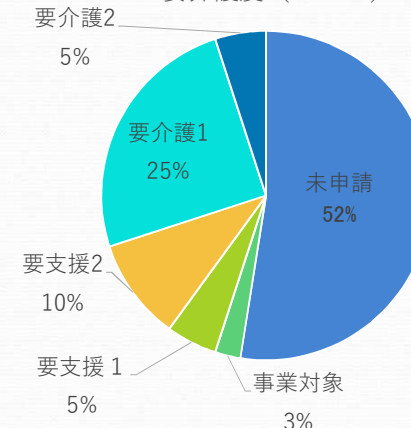
5

支援対象者の状況

世帯構成 (n = 40)



要介護度 (n = 40)



- ・子供世帯と同居の対象者が5割以上を占めた (R3: 15%)
- ・介入時、要介護認定未申請が5割以上を占めた (R3: 45%)

6

支援対象者の状況

対象分類	件数	率
医療・介護サービスを受けていない または中断している	38	93%
医療・介護サービスを受けているが、BPSDが 顕著なため対応に苦慮している	8	21%

n=40 複数回答あり

主な状況

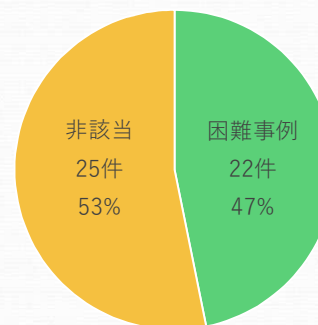
- ・本人に認知機能低下の自覚がなく、受診や介護サービスを拒否
- ・受診しているが、鑑別診断は未実施
- ・同居の家族に理解がなく、受診やサービス利用につながらない
- ・被害妄想あり、家族が困っている など

7

支援終了者の状況

【令和4年度に支援が終了した者】

困難事例の割合 (n = 47)



困難事例の内訳

- ・本人拒否が強く、家族の方針も一致しない
- ・独居でキーパーソン不在、本人に自覚なく、周囲が困っている
- ・独居で家族とは疎遠、病識なくサービスにつながらない

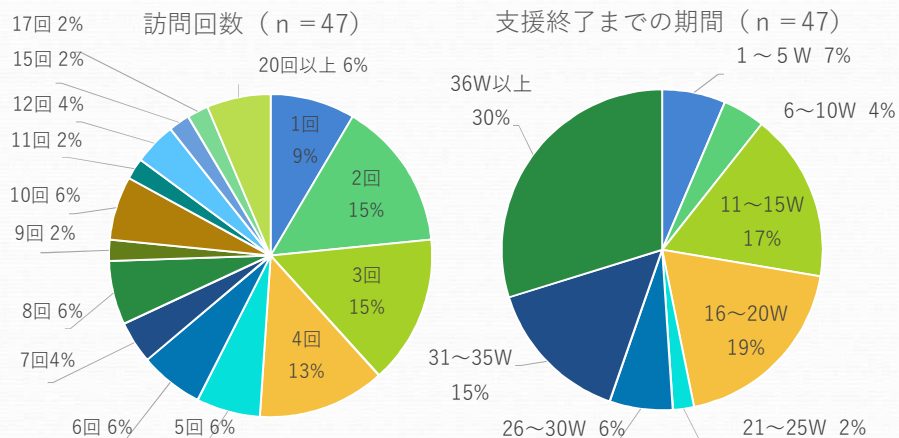
など

- ・支援者の半数近くが困難事例であった (R3: 51%)

8

支援終了者の状況

【令和4年度に支援が終了した者】

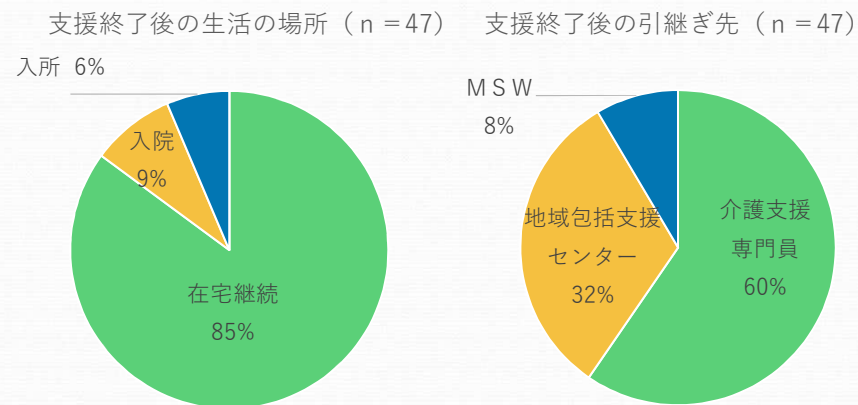


- ・訪問延回数320回、訪問回数の平均は6.5回 (R3: 平均6.9回)
- ・支援終了に至る期間は約5割が6ヶ月以上だった (R3: 約4割)

9

支援終了者の状況

【令和4年度に支援が終了した者】



- ・支援終了後の転帰先は8割以上が在宅継続だった (R3: 80%)
- ・引継ぎ先は介護支援専門員、地域包括支援センターで9割以上だった (R3: 介護支援専門員45%、地域包括支援センター44%)

10

支援終了者の状況

【令和4年度に支援が終了した者】

医療サービスの導入

81%



医療サービスにつながらなかった方の状況

- ・チーム員の関りにより、妄想の増強、生活への支障がでたため支援を断念
- ・医療受診のメリットがないため地域の見守り体制を整えた
- ・本人が受診を強く拒否したため医療受診に至らず、介護保険認定申請、成年後見制度につなげた

- ・専門医の鑑別診断後かかりつけ医へ
- ・訪問看護の導入により医療受診へ
- ・通院困難により訪問診療医へ
- ・行動・心理症状強く専門医へ入院

11

支援終了者の状況

【令和4年度に支援が終了した者】

介護等サービスの導入

65%



介護サービスにつながらなかった方の状況

- ・拒否が強かったが、チーム員との信頼関係づくりに努め、要介護認定申請やつなぎ先のケアマネとの信頼関係の構築まで至った
- ・成年後見制度につなげた
- ・BPSDが顕著で医療保護入院となった など

- ・訪問看護の利用
- ・訪問薬剤師の導入から訪問系サービスの利用へ
- ・訪問リハビリの導入
- ・施設入所 など

医療または介護等サービスへの導入率は91%

12